

中間貯蔵施設見学会・意見交換会を 開催しました

- ・ 目的：中間貯蔵施設の見学を通して、除去土壌の最終処分等、第一原発事故に付随する様々な課題について自分事として考えるきっかけとする。
- ・ 開催日時：令和6年9月4日（水）8:00～18:00
- ・ 開催場所及び講師：中間貯蔵工事情報センター、中間貯蔵施設、道の駅なみえ〔専門家：山田孝一（原子力安全研究協会） ファシリテーター：久保田彩乃（福島大学）〕
- ・ 参加者：福島大学及び福島県立医科大学の学生、教員 計6名
- ・ 内容：－中間貯蔵工事情報センター及び中間貯蔵施設見学
－意見交換
- ・ 概要：中間貯蔵工事情報センター及び中間貯蔵施設見学では、除去土壌や除染廃棄物等が最終処分するまでの間、安全に管理・保管されていることを学んだ。その後、双葉町内等を車窓見学し、道の駅なみえにて意見交換を行った。参加者からは、「東日本大震災に伴って起きた問題（第一原発事故や津波等）について考える良い機会になった。」等の意見があった。

【主な意見交換等】

- ・ 再生利用するための除去土壌は8,000ベクレル以下であるのはなぜか。
→埋立処分を行う作業者が1日8時間、1週間に5日間作業して、被ばく線量が1年間で1ミリシーベルトを超えない基準である。
- ・ 中間貯蔵施設は最終処分の場所にできないのか。
→国の法律により福島県外で最終処分することが決まっているため、最終処分の場所にすることはできない。
- ・ 福島県出身だが浜通りのことや除去土壌について知らないことが多いと感じた。除去土壌の再生利用は実現すると良いため、自分も周囲に理解を広めて行けたらと思う。
- ・ 放射線に関して危険性と利便性を併せて説明できると良いが、危険性の情報だけ印象に残ってしまう可能性もある。
- ・ 1つの事故に対していくつもの課題が付随して何年も続いているのだと実感した。



中間貯蔵施設見学の様子



意見交換の様子